

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスるび			
○保護者評価実施期間	令和7年8月22日 ～ 令和7年10月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32人	(回答者数)	29人(25家庭)
○従業者評価実施期間	令和7年9月1日 ～ 令和7年10月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数)	8人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月19日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもが楽しんで活動に参加をしている。	スタッフが主導しすぎず、子どもの自発的な活動によってお芝居を作っている。台本を書きはじめたり、話し合いを持つことが日常的になったりと個人やチームによって成長はさまざまであるが、自立性につながる成長が目立つ。	興味関心をもとに、長期的な運営・計画についても、子どもたちに任せて行き、より社会生活に結びついた成長を促していきたい。
2	公共交通機関に利用や、買い物など、生活能力の向上も期待できる。	通所支援や、休憩時間の買い物など、機会づくりをしている。高学年の子どもが見本になって、低学年の子どもが真似をする雰囲気がある。	公演に向けた会計なども、可能なチームは取り組みを促す。
3	演劇によりコミュニケーション能力の伸長をはかり、さらにコグトレによって認知能力や学習への取り組み方が学べるなど、子どもにとって必要な能力を総合的に伸ばすための体制がある。	「フリーデイ」として、子ども同士でゆっくり話をする場も設けている。将来についてや生活上の不安、不満についてなどを共有する場にもなっている。	利用者増により、これまでのような細やかなプログラム分けが難しくなってくると思われる。代替する方法の模索しておく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	クールダウンスペースが確保しづらい。	演劇活動で使う、舞台セットや小道具が出来上がっていくと、スペースを侵食される。	テントなどを子どもがクールダウンスペースとして利用していることから、今後も設置する。
2	標準化された子どものアセスメント表がない。	自発的な演劇活動を中心にした療育を行っているため、構造化が難しい。	事業立ち上げからの6年の演劇療育の積み上げから、活動への参加について、ある一定の決まった道筋があることが見えて来た。段階表のようなものは提示できるのではないか。
3			